

# ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



## 楽しかったね！ 家族PTA

先週の6月30日（土曜日）に、今年も恒例の家族PTAが行われました。  
 3年に一度回ってくるテーマ、今年は「制作あそび」でした。「作ってあそぼう！」というものです。どんなものが、程良い手応えのある制作で、しかも遊んで面白いものになるであろうか？考えるのは本当に大変なことです。そして、細部まで行き届いた準備。当日は雨模様でしたが、それぞれの部屋は、しっとりと親子で作る姿が見られてとても良い雰囲気でした。子どもたちも良い笑顔でしたね。手作り感一杯の楽しい一日となりました。



お世話下さった全て  
てのみなさんに感謝  
申し上げます！

### 「笑ひ合える」とどうして

子どもと、何の屈託も無く、腹の底から笑い合えたことってありますか？ただもう、可笑しくって可笑しくって仕方がない！お互いに笑い合っていることがまた可笑しくって・・・というように・・・  
 大人はどうしても子どもに対して上から目線であることが多いものです。子どもと心底共感し合える瞬間は滅多にありません。「絵本の読み聞かせ」は、その「壁」を意図して生まれるものでない「魔法」。そして、その瞬間は「奇跡の瞬間」に、私も居合わせたかったです！



### 寄稿文「お話しボンの会で」 甲斐栄

絵本を読む時間は、一日のうちのほんのひとときです。「お話しボンの会」も、午後のほんのひとときです。ある日、もぐみさんの「お話しボンの会」で、少し時が残ったので「カタツムリにげた」（三輪一雄作／子どものお話、飼っていたカタツムリのでんすけが水槽から逃げ出したところから始まります。「カタツムリは通つたところにあとが残るから、それを辿ればどこに行つたかわかるかもしれないよ。」とお母さんに言われ、「ぼく」は這つたあとを追いました。  
 畳の上を這っている、蚊取り線香立てのブタの中を通り、横になつて眠っているじいちゃんの顔に這つたあとがあります。それでも、じいちゃんには気が持たれなな顔になつてまます。この場面を読んでいる時、絵本の真前に座つていた三人の子どもが「クスツ」笑いしました。するとその後ろのみんなが「ウフフ」「ウフフフ」と笑い出しました。そして、ぐるぐると絵本を囲んだ全員が「アハハ、アハハ」と笑い出して、とうとうみんなに笑いを広まりました。私は読みながら「ウフフ」ともらい笑いをしていました。時、私は読みながら「ウフフ」ともらい笑いをしていました。もう、お話しボンの会では、全員笑つていました。私は、子どもたちにも「おかしなね」「笑つてしまふね」と同調して「ハハハハ」と笑つてしまいました。私もみんなに加わつて「ハハハハ」と笑つてしまいました。私もお話しボンの会では、子どもたちにも「おかしなね」「笑つてしまふね」と同調して「ハハハハ」と笑つてしまいました。私もみんなに加わつて「ハハハハ」と笑つてしまいました。

